

東アジア物流の明日を考える 低炭素化 シームレス化 を目指して

平成23年7月8日（金）
東京大学 本郷キャンパス 山上会館

【開催主旨】

東アジアの急激な経済発展により、域内のコンテナ海上荷動き量は2050年に現在の10倍に達するであろうといった予測がある。一方、コンテナ物流の急増は、海陸一貫輸送下でのCO₂排出量の増加やコンテナ貨物の渋滞といった物流の効率低下を引き起こす。健全な東アジア物流の発展には、低炭素化・シームレス化が大きな課題と言える。本シンポジウムでは研究活動成果の報告も含め、東アジア物流の明日に向けて我々がなすべきことは何か、どのようなシステムイノベーションが必要かといったことを考えていきたい。

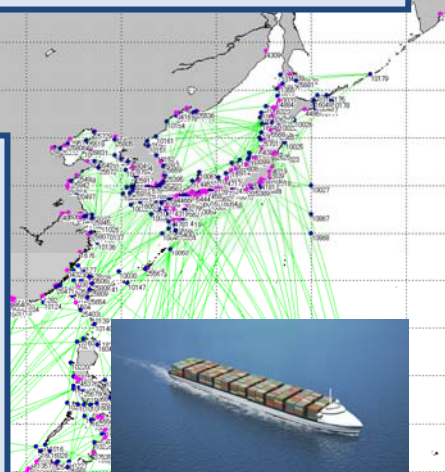
【プログラム】

- | | | | |
|-----------------------|---|---------------------------------|------------|
| 13:30-13:35 | 開会挨拶 | 研究委員会代表 東京大学 | 末岡英利 |
| 13:35-14:05 | 基調講演 “ 東アジア物流の発展と日本の役割 ” | 日本海事センター理事長 | 春成 誠 |
| 14:05-14:35 | 講演 “ コンテナ物流の理論と実際 ～ 東アジアの現状と将来動向 ” | 東海大学教授 | 石原伸志 |
| 14:35-15:05 | 講演 “ 物流サービスにおける情報イノベーション ” | 野村総合研究所上席コンサルタント | 石井伸一 |
| （ 各講演への質疑応答:10分程度予定 ） | | | |
| ＜休憩＞ | | | |
| 15:30-16:00 | 研究報告 “ 東アジア域内の効率的物流ネットワークの創造 ” | 海上技術安全研究所 | 加納敏幸 |
| 16:00-16:30 | 研究報告 “ 物流シミュレーション手法と物流計画支援 ” | 東京大学 | 秋元博路 |
| 16:30-17:30 | パネル討論 ～ 東アジア物流 次世代海上輸送システムを考える ～
地勢的特徴を考慮したネットワーク、 低炭素化のためのイノベーション、
物流+人流:Ropax Ferryの可能性、等 | パネリスト:講演者、合田浩之(日本郵船)、町田一兵(明治大学) | モデレータ:末岡英利 |

- 【主催】 日本船舶海洋工学会 東アジア物流ネットワーク研究委員会
【後援】 東京大学 大学院工学系研究科 海運造船新技術戦略寄付講座

【 申 込 要 領 】

- 申込先 : 東京大学 海運造船新技術戦略寄付講座 末岡教授室秘書 (上坂綾子) 宛
E-mail : kousaka@sss.t.u-tokyo.ac.jp
または 参加申込書 Fax にて、 TEL&FAX: 03-5841-6547
- 申込期日 : 平成23年6月30日 (木)
- 参加費 : 無料
- 定員 : 100名



FAX No : 03-5841-6547

(東京大学 海運造船新技術戦略寄附講座 末岡教授室 宛)

参加申込書

下記シンポジウムに参加します。

日本船舶海洋工学会 東アジア物流ネットワーク研究委員会 シンポジウム
“東アジア物流の明日を考える ～ 低炭素化シームレス化を目指して”

日時：平成 23 年 7 月 8 日(金) 13 : 30～17 : 30

場所：東京大学 本郷キャンパス 山上会館

参加者氏名： _____

所属： _____

連絡先：(e-mail)

：(TEL)

以上